



さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会ニュース VOL.3

発行者：文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会
 事務局 文京区福祉部保育課保育係：東京都文京区春日1丁目16番21号
 電話 03-5803-1189 Eメール b303700@city.bunkyo.lg.jp 2005・8・26 発行

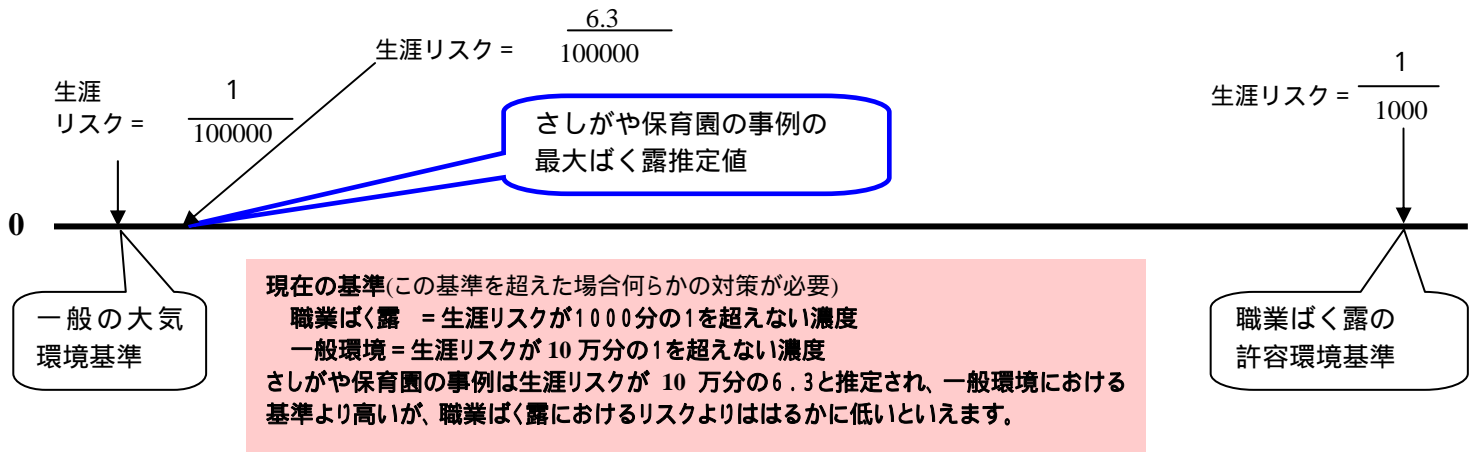
最近アスベスト問題について頻繁に報道があり不安をもたれる方も少なくないと思います。しかし今回の報道によってさしがや保育園に当時在園していた園児たちのリスクが高まったわけではありません。最終報告書で報告したリスク推定値は、過去のデータをもとに詳細に検討し、評価したものです。大切なのは今後、リスクを上塗りしないことです。そのために専門委員会は、みなさんとよくコミュニケーションをとっていきたいと思っています。

特集アスベスト健康対策についてココが知りたいQ&A

Q 私達の子供が受けたばく露というのはどのぐらいのレベルなのでしょうか
 どの程度の心配が必要ですか?なかなかイメージがつかめず報道などをみると心配になります。

A 報道されている職業ばく露のように長年にわたるばく露ではありません。

シミュレーションによって得られたばく露推定値によると、一般の人が現在の日本で普通に生活した場合、一生をかけて吸うであろう空気環境中のアスベストの量を一週間で吸ってしまったということになります。図(イメージ)にすると次のようになります。座標上左に行くほどリスクは少ないと考えます。



生涯リスクとは:有害物質にさらされたことで一生を通じて、その有害物質に関係する病気を発生する確率。この場合、アスベスト関連疾患(肺がんまたは中皮腫)の発生が推定される確率。10万分の6.3とは、今回のばく露レベルによって10万人に6.3人の割合で病気が発生する可能性があるという意味。10万人の集団が同じ環境下にさらされたと仮定した場合の発症確率であって、一人の人に対する発症確率を示すものではない。

アスベスト濃度の環境基準について:アスベストのように閾値(いきち)がない物質については、本来は限りなく0に近いことが望ましいが、現在のわが国では公衆衛生的立場から、上記のような基準が設けられている。この基準を超えた場合には何らかの対策が必要であると判断される。職業ばく露のほうが緩い基準となっている理由は、防毒マスクの着用や労働時間の調整、定期健康診断の実施などによって管理が可能であるから。

注：閾値とは「ここまでの量だったら発ガンのリスクはない」といえる値のこと

Q ばく露のことを出来ればわすれてしまいたいと思っています。しかしアスベストという言葉を引きくと気が重くなります。今後どのように考えて行くことがいいのでしょうか?

A 問題から逃げることはかえって危険性を高めます
 アスベストによるリスクは、すぐには目に見えないので、考えたくないという気持ちもわかります。しかし、問題に対しては正面から取り組んだほうがよい方向を導き出せます。たとえば、糖尿病になる因子を持つ人は検査でわかりますが、発症するのは10年後くらいといわれています。何も対策を講じないと発症してしまう病気ですから、「教育入院」といって自分の生活習慣や食習慣を見直すためのプログラムがあります。これを受けた人は受けなかった人に比べて発症確率が低まることがわかっています。アスベストに関連する病気は潜伏期間が長く、20年~40年といわれています。今後の生活の中で、発症リスクを高めないことが重要になってきます。喫煙や二重ばく露といった発症リスクを高める因子から遠ざかるために、問題に向き合うことが大切と考えます。

さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会ニュースVOL.3

Q 子供の通う小学校で耐震工事が行なわれるそうですが、何か注意は必要でしょうか？

次回専門委員会は9月5日(月)
PM7:00～シビックセンター4階
シルバーホールにて
傍聴する事が出来ます。

A アスベストが鉄骨部分に残っている場合はもちろんの事、壁材などがアスベスト含有建材かどうか調べる必要があります。

工事後のシックスクールへの配慮をしているかどうか、古い蛍光灯でPCBを使った物は取り除かれているかなど確認した方が良いです。工事の前に説明があるとは思われますが、詳しい説明を学校・行政側に求めて安全を確認してください
困った事があればアスベストセンターまでご連絡ください。

2005年の夏休みに柳町小学校および隣接する児童館と幼稚園の耐震工事が行なわれています。保護者側から説明会の開催を求め、小学校に関しては事前に説明会が行われ問題ないことが確認されましたが、児童館に関しては、説明会が工事開始前日に開かれたこと、アスベスト含有建材の取り除き作業が保育と並行して行われることが判明し保護者の間に不安が広がりました。専門委員(永倉)も交え安全性について話し合い結果的に含有建材の撤去作業日前日に別の場所での保育が確保されました。不安を払拭するためには、専門家も巻き込んだ十分なコミュニケーションが必要であることが、改めてクローズアップされました。この問題は次の専門委員会で報告され議論されます。

トピックス

文京区内の小児科・内科関係者に手帳の存在を知ってもらう、「アスベスト講演会」が開催されました。

2005年4月21日、文京区医師会と小石川医師会は、「文京区立さしがや保育園アスベスト健康管理手帳」の存在を文京区内の小児科医と内科医に周知するため、「アスベスト講演会」を開催しました。

講演会は専門委員でもある倉根委員の司会で進行、同じく専門委員の名取委員が講師を務めました。

内容は、石綿 石綿による疾患 日本の石綿規制の現状 さしがや保育園の事案の概要とリスク 健康管理手帳の5項目を1時間で説明。その後、手帳を持参した場合の診察内容の記載、アスベスト関連疾患(疑い)について専門委員や委員会と相談しながら進めることが確認されました。最後に松平委員が、「リスクのとらえ方は多様であり、子供さんを診察した医師は、心配されている保護者の気持ちをくんだ対応をお願いします。」と呼びかけました。

小児科医、内科医を中心に30名の方が出席され、数名から熱心な質問が出されました。健康管理手帳の存在は多くの医療関係者に理解され始めているようです。健康に不安が生じて医師にかかる際、健康管理手帳の存在は今後ますます重要になってきます。まだ、手帳を受け取っていない方は、早めに受け取られることをお勧めします。

今後手帳を受け取りたいとお考えの方は事務局
文京区保育課までご連絡ください。

電話 03-5803-1189

Eメールアドレス b303700@city.bunkyo.lg.jp

リスク相談の場で直接受け取る事もできます。

今回の講演会に出席した専門委員です。所属 現在取り組んでいる主な活動 さしがやの問題について一言。



名取雄司 なとりゆうじ

ひらの亀戸ひまわり診療所 呼吸器内科 医師
アスベスト関連疾患 在宅医療
80年単位の息の長い委員会です。
継続を大事に続けたいと思います。



小石川医師会推薦委員

松平 隆光 まつだいらたかみつ

松平小児科院長・小児科医師
わが国の少子化
21世紀の小児科開業医のあり方
長期的なしかも重要な問題。日本の手本となる
フォローが必要



文京区医師会推薦委員

倉根 修二 くらねしゅうじ

文京クリニック院長
日本医大呼吸器内科非常勤講師
喫煙の呼吸器疾患への影響について
癌免疫療法の有効性の検討
非常に息の長い追跡調査と介入が必要な問題だ
と思います。地元の医師会としても、積極的に関
わっていかねばならないと考えています。

このQ&A またニュースに対するご意見・ご質問はアスベストセンター(編集部・専門委員永倉)まで是非ご連絡ください。皆さんの必要とする情報をお知らせするニュースをめざしています。個人的な質問でも結構です。ニュースへの掲載にあたりましてはご本人了解のもと編集させていただきます

あて先 アスベストセンター TEL:03-5627-6007 FAX;03-3683-9766 Mail:info@asbestos-center.jp